



RIKKYO SCHOOL IN ENGLAND

立教英国学院

— 立教大学系属校 創立 1972年 —

No.4

July 2026

# 同窓生からのメッセージ

2026 年 3 月に新同窓会総会と懇親会が立教大学池袋キャンパスにて開催されました。初めての総会では、同窓会のこれからの運営方針、会則が提案、承認され、会場を第一食堂に移しての懇親会には約 120 名の同窓生が参加し、旧交を温めました。来年は 2027 年 3 月 28 日（日）に開催予定です。是非、ご予約ください。

今回も、同窓生の皆様から、メッセージが届いておりますのでご紹介いたします。紙面の都合により、写真サイズが小さいですが、WEB サイトでご確認いただけます。



英国からの材料とレシピで  
「アップルクラムブル」もメニューに!!

## 松田 宏一郎（1 期生）

（以下、敬称略）

早稲田大学、東京都立大学大学院修了 立教大学法学部教授

立教大学法学部助手、岐阜大学を経て、1995 年から現在まで立教大学法学部教授。日本政治思想史の講義やゼミを担当しています。徳川時代の学者の思想や明治時代の思想家の著作と時代背景、古典漢文や西洋思想の日本での解釈の多様性について研究し、また講義では戦国時代から 20 世紀までの政治思想を通史的に解説しています。

### memories

造船会社のロンドン駐在となった父の転勤に伴い、立教英国学院には開校に少し遅れて 1972 年 9 月に入学し、75 年 3 月まで在学しました。東京の公立小学校から全寮制の学校への転校はとまどいが大きいものでしたが、英国学院の先生方も仲間達も open mind で、いつの間にかすっかりなじんでいました。英語は全く初心者でしたが、ネイティブの先生から英語で英語を学ぶという経験は意外にも違和感がなく、自然に英語に囲まれる環境に慣れたと思います。イングランド南部らしい美しい農場の景色、湿度が低いいためかとても青い空とひんやりした爽やかな空気は、原風景のように私の中に生きています。そして何と言っても当時の英国はまだビートルズの余波があった上に先端的なロックの宝庫で、下手ではあるもののギターを弾くようになったのもそれらの影響でした。今も、当時の英国学院の仲間と会うとほぼその話題で何時間でも盛り上がります。研究者となってから通算すると 4 年くらい英国で暮らしました。それ以外にも何かの仕事でほぼ毎年英国を訪問しています。第二の、というよりも一つ（あるいはそれ以上）の故郷です。家族を連れて 2 度英国学院を訪問しましたが、カリキュラムや設備が充実し感心するばかりです。他方昔の建物も残されており、ゲートから本館に向かう道では懐かしさがこみ上げました。一度本館に宿泊もさせていただきました。

### message

英国学院にいたおかげで、研究者になってから海外での会議や学会などでの仕事に特に困ることもない基礎を作ってくれたと思います。しばしば英語を使って日本の歴史や社会について論文を書いたり講義をした経験から言わせていただくと、在校生の皆さんは、他では得られない特別な機会を与えられたと思うべきです。外から日本社会を眺め、日本語と英語の両方で考えた経験が将来特別な能力として活かされる機会が必ず来ます。



同期生、息子さんと英国学院訪問(中央がご本人  
右:宇宿昌洋校長(当時)、左:辻同窓会長)



Mrs.Philips (在学当時の英語の先生)と

## 貝田(旧姓)／四本 紀代美（4 期生）

香蘭女学校へ入学後、英国へ。当時の London University の College だった舞踊学園卒業

一般社団法人 ACCAC Global Japan (創設) / 代表理事、NPO 法人パラダンススポーツアンドアートジャパン / 事務局長、公益社団法人日本ボールルームダンス連盟 PD / 審判員・指導員、スタジオゼロヨツモト (経営)

1986 年～2006 年

公益財団法人日本ボールルームダンス連盟 / 全日本グランドファイナリスト・東部日本チャンピオン・10 ダンスファイナリスト・文部科学省所管生涯教育青年スポーツ課商業 1 級インストラクター・教職員試験委員・A 級審査員、公益社団法人日本ダンススポーツ連盟 / 2005 年東アジアスポーツマカオ大会銀メダリスト・プレミアディビジョン創設・A 級審判員指導員、国際パラリンピック委員会国際審判員 / 2014 年アジアスポーツ仁川大会以降

【Youtube 動画】<https://youtu.be/aH0IGhdxX0k> <https://youtu.be/iTb24OouiYU> <https://youtu.be/j6uKuC34AQY>

### memories

立教英国学院に在籍中の思い出はたくさん有りすぎて、どれを?と問われて困るくらいですが(笑) 入学日当日に通された事務室で、窓際に同級生となる男子が窓からのぞいていたり、ガーデンハウス

で過ごしたドミトリーでのたくさんの思い出、ミセスストーリーターさんにお世話になったこと、そして!東先生ご夫妻の結婚式をガーデンハウス裏庭で行ったこと、スクールショップやビスケットとオレン

ジューズのお十時とお三時の女子トーク、キャロリングで慰問先でのみなさんの笑顔、ブルーベル時節の森の探索、本館のシャンドリアの拭き掃除、数学の授業で寝てしまった同級生をひとりだけ残して先生も生徒もみんなで教室の外にでて起きるまで外から見ていて驚かせようとしたこと、シェークスピア演劇、ネットボールと乗馬（ビリングスハースト）、ウィンブルドン観戦、オーストリアスキー

## message

そして!みなさんにお伝えしたいのは、62 歳になった今でも立教英国学院で過ごした思い出は昨日の事の様に思い出すことができ、それが現在の人生において素晴らしい糧となっていること。多感な時期に様々な経験を積むこと、自分たちで創意工夫して先生方と共に生きていたこと。このことは、立教英国学院ボーディングスクールならではの大変貴重な経験です。立教英国学院で過ごすことこそが、想像を超える貴重な機会であり、現在の自分をつくっているのだと、胸をはって世界に羽ばたいて欲しいと願っております。

今しか作れない時間はあります。そしてその時間はその先にずっと続いており、未来を創造していきます。

どんなことが起こっても、どんなことが身に降りかかろうとも、今在校しているみなさんの未来創造へのステップと確信して、やりたいこと、できること、そして見回せば仲間がいて先生がいて、身近に家族の様に支

修学旅行、そしてめったに行けないリヒテンシュタイン公国へ行き、往復に利用したスイスエアーが立教生をととても歓迎してくれたこと、そして何よりもエリザベス女王即位 25 周年記念のラジウィック村へ出展した「ちぎり絵」が入選して地元紙に掲載。そして!女王陛下から直々にお手紙が立教へ寄せられて、その絵をバッキンガム宮殿へ献上したこと。筆舌に尽くせない思い出がまだまだあります。

えあうことができる環境があること。それこそが貴重な財産であること。

私も一時期英国と日本を毎年行き来し、その折には立教英国学院でダンススポーツを披露しお教えしました。立教英国学院にもダンススポーツという素晴らしいスポーツをオリンピックとして伝えたいからです。

そして自由な発想と校風を持ち、生徒皆さんの可能性に惜しみない創意工夫を提供してくださる学校はそうそうありません。

みなさんは素晴らしい学校に在籍しているのだと、誇りに思っただけ、そして先輩たちの歴史を覆すような、そんな歴史を作ってもらいたいとも思っています。

日本では先輩たちが定期的に同窓会を開催し、その時に得た素晴らしい体験をとおして親交を深めています。日本に帰国の際はおいししましょう!



ご本人近影



定期講習会の模様  
(後ろ中央、立っているのがご本人)



千葉県柏市駅前ライブ、パラダンススポーツ  
(最後列、青い服がご本人)



大阪 EXPO 動画



パラダンス  
スポーツ動画

## 麻生 健太郎（7期生）

聖マリアンナ医科大学卒業、同大学院卒 同大学小児科教授

聖マリアンナ医科大学病院 こどもセンター副部長 ハートセンター副部長

大学院卒業後はこどもの心臓病のエキスパートになるべく、榊原記念病院心臓小児科、トロント小児病院カテーテル治療部門で研修しました。現在は母校の病院の小児科で赤ちゃんから成人期に到達した先天性の心臓病の患者さんまで診療をしています。

## memories

私は小学校6年生から中学校3年生まで、1979年から1982年にかけて立教英国学院に在籍しました。ちょうどマーガレット・サッチャーが首相となり、英国が大きく変わろうとしていた時代です。多感な中学生の時期を、そんな激動の英国で過ごしたことは、今思えばとても貴重な経験でした。パンクロック全盛期。街にはモヒカン頭に革ジャン、鉤のついた服を着た若者たちがあふれていました。不景気、失業、パンクロック。どれも暗いイメージではありますが、一方で「これから何かが変わりそうだ」という、何とも言えない空気がありました。当時の雰囲気が、私の記憶の中では「英国らしさ」として残っています。

そんな時代に過ごした立教英国での生活は、決して贅沢なものではありませんでした。教室はプレハブ、ベッドは狭い二段ベッド、食事の量は少なく、ひもじい思いもしました。それでも賢く、物知りで、個性豊かな同級生たちと生活を共にし、いろいろなことを語り合う日々は刺激的で楽しいものでした。

写真は中学3年生の頃の集合写真です。ご覧のとおり、同級生には美人が多かったことが分かります。今見返しても、なかなか誇らしい写真です。

「あのとき目の前で～好きだと言えたら……」と、ユーミンの歌詞のようなことを今さら考えて、小心者であった自分を少し悔いております。

右端に写っているのは、担任だった大塚稔夫先生です。残念ながら、6年前に膀胱ガンで亡くなりました。先生が入院されて

いた時には、同級生が集まってお見舞いに行きました。その帰り道は、いつの間にか久しぶりの同窓会になり、昔話に花が咲きました。その後も何度かお見舞いに伺いました。お身体の状態が悪い中でも、先生は私たちの訪問をととても喜んでくださいました。先生を励ますための面会でしたが、教師としての矜持を失わない先生の姿勢に私たちの方が励まされました。

左に写っているのは、もう一人の担任だった滝口先生です。最近はずっと音沙汰がありませんが、お元気にされているのでしょうか。もしこの文集をどこかでご覧になっていたなら、ぜひ近況をお聞きたいものです。

もう一枚の集合写真は、おそらく中学1年生の頃の写真です。一番後ろの列に写っている背の高い男子は山中君です。中学2年生の時に帰国され、その後は会う機会もありませんでした。何年か前に連絡を取ってみたところ、数年前に亡くなられたとお母さまから伝えられました。YouTubeにはご友人が作られた山中君を偲ぶ動画が残っています。立教英国時代と変わらず明るい性格で無類のサッカー好き。多くの人に愛されていたようです。

最前列の右端には一昨年亡くなった安達君が写っています。クラスで一番賢かった安達君は、高校生の時に骨肉腫を発症。その後、壮絶な闘病生活の末にがんを克服しました。しかし、その後、脳変性疾患を発症し。ゆっくりではありましたが、確実に病気は進行していきました。

ご家族、特に奥様の献身的な介護があり、状態が悪くなってか



らも同窓会には来てくれました。最後に来てくれた同窓会では言葉を発することも難しい状態でしたが、みんなと会っている時はいつも笑顔でした。大学卒業後は MRI 機器の開発に従事していたそうです。一番賢かった安達君のことだからきっと素晴らしい仕事をしていたのでしょう。亡くなった時には、「私が先に死んで、安達が生き残った方が、ずっと世の中のためになるのに…。神様もよく分からない選択をするものだなあ」そんなことを考えました。

右には、中学2年生の時の担任だった添田先生が写っています。個性はかなり強めでしたが義理人情に厚い、いい先生でした。そんな先生に対し我々は生意気な口ごたえの多い生徒でした。一昨年の夏、先生がリンパ腫を患い、入院中だと聞きました。北九州の病院に入院されていたため、すぐに面会に行くこともできず、みんなでデジタルの寄せ書きを送りました。その後、私は福岡に行く用事があったので先生のお見舞いに行くことにしました。電話で「これからお見舞いに行きます」と伝えると、「免疫不全の患者が

入院する病室にいたので面会はできない」と言われました。しかし、私は構わず会いに行きました。

病室に入ろうとすると、看護師が集まってきて追い返されそうになりましたが、無理やり病室に入っていました。先生は私を見て「お前、本当に来たのか」という顔をしていました。私は先生と写真を撮り、「頑張って病気に勝ってください!」と伝えて帰りました。わずか2、3分の面会。帰り際に先生の方を振り返ると、看護師に面会をしたことを強く咎められていました（怒鳴られている声が聞こえました）。面会の2か月後、先生は亡くなられました。

奥様に連絡してくれた庄司君の話では、先生は私たちが送った寄せ書きを何度も読み返しては、「自分はここに書かれているほど良い教師ではなかった。あの頃に戻りたい」とおっしゃっていたそうです。

俺たちも中学生に戻って、もう少しいい生徒になりたいよ。

そうすれば、添田先生にもう少しいい思い出をあげられたのに。

そう考えると、今でも涙が出そうになります。

## message

立教英国で学んでいた時代、いったい自分にとって何が良かったのだろうか。今でも時々考えることがあります。

私にとって一番良かったことは、メディアから絶え間なく流れてくる余計な情報から少し距離を置き、自分自身の価値観を育てる時間を持てたことでした。インターネットを通じて世界中の情報が一瞬で手に入る現在、私たちが立教英国で体験したような環境をそのまま再現することは難しいのかもしれない。

それでも、日々の喧騒から一歩離れ自分の目で世の中を見つめ直すことは、今の時代だからこそ大切なのではないかと思います。

私は現在、小児科医として、主に先天性心疾患をもつ患者さんたちの診療に携わっています。有効な治療法が限られた病気を抱えながらも、与えられた環境の中で不平を口にすることなく、日々の生活の中に幸せを見つけながら生きている方々がいます。その姿を見るたびに、「幸せって何だろう」と考えさせられます。

後輩の皆さんは、あふれる情報に惑わされることなく、自分の目で見て、自分の心で考える時間を大切にしてください。

立教英国での日々が、皆さんにとって自分の軸を育てる大切な時間になることを願っています。



① 中学校3年生のときの集合写真（後ろから2列目右端がご本人） ② 中学校2年生のときの写真（修学旅行／後列中央右、茶色シャツがご本人）  
③ 私が添田先生のお見舞いに行ったときの写真。看護師に怒鳴られながら撮影。 ④ 添田先生への寄せ書き

## 太田 真嗣（9期生）

立教大学・法学部法学科卒、日本放送協会 解説副委員長

1991年 NHK 入局。政治部記者として、総理大臣官邸や自民党の派閥等の取材を担当。総務省キャップ、政治部デスクを経て、2011年から解説委員（政治担当）。その後、『ニュースウオッチ9』編集責任者、『おはよう日本』編集長、熊本放送局長を経て、2025年から解説主幹。2026年7月からは解説副委員長として、NHK『日曜討論』のキャスターを務める。（2016年—2020年、2025年8月—）

## memories

立教英国学院には中学3年の1学期後半から。スイスの現地校からの転入で、最初は英語も勉強もついていけず、寮生活も初めてで、先生方に大変ご迷惑をお掛けしました。（苦笑）ただ、その後の高校生活は、当時の『ギター部』の仲間とのバンド活動、ボーイスカウトの活動、また礼拝でのクロスベアラーや、朝の行進時の鼓笛隊（?）など、本当に充実した3年間でした。一番の思い出は、ニューホール落成記念にあわせて行われた高校2年の時の文化祭。実行委員として関わりましたが、学校全体で、「これまでとはスケールの違う文化祭にしよう!」という一体感があり、終わった時の感動と達成感は今も鮮明に憶えています。



NHK 日曜討論のスタジオにて



卒業30年後に再結成（ドラム）

## message

“異国の地”で、“同じ窯の飯を食う仲間（先生も含む）と出会う”という奇跡に感謝し、大事にしてほしいと思います。仕事柄、様々な場面・立場で、多くの方々とお会いしますが、不思議なもので、立教英国の仲間とは、何年、時が空いても当時と同じように付き

合えます。それは真に私の財産です。皆さん、それぞれ思いはあるでしょうが、間違いなく、いま、人生の貴重な時を過ごしています。是非、そのチャンスを大切にして、他校では出来ない経験とチャレンジで視野を広げていって下さい。



## 浅枝（中條 ちゅうじょう）里美（14期生）

立教大学 文学部教育学科卒、公益社団法人 日本馬術連盟

日本の馬術競技を統括するスポーツ団体に勤務しています。馬場馬術・障害馬術・総合馬術・エンデュランスの4種目における全日本馬術大会を主催し、他団体が開催する競技会の公認も行っています。また、騎乗者資格や審判資格の認定、競技会に参加する馬匹の登録といった運営関連業務も行っています。現在私は主催競技会の運営に加え、オリンピック、アジア競技大会、世界馬術選手権など国際大会への人馬派遣業務を主に担っています。

### memories

中学3年から高校3年までの4年間お世話になりました。当時は社会主義下のポーランドから通っており、世界各国から集まった生徒たちと共に海外生活を「日常」として過ごした経験は、今振り返ると非常に貴重なものでした。フライデースポーツで「乗馬」を選んだことが、現在のキャリアにつながったと感じています。学年や性別を超えて築いた当時の仲間とは今も交流が続き、会えば当時の思い出を語り合える大切な存在です。



1990年H2女子で体育の後に  
(手前でボール持っているのが私です)



2021東京オリンピックの際にボランティアでお手伝い  
頂いた15期の河井尚子さん(左)と(旧姓：水野)



2024パリオリンピック総合馬術銅メダルの  
初老ジャパンと総務担当で(右から3人目)

### message

振り返れば、高校時代は明確な「夢」や「やりたいこと」があったわけではありません。ただ、立教英国学院での生活を通じて、自分の得意・不得意を知り、人との距離感や関わり方を自然と学ぶことができました。

親元を離れ、寮で他人と生活する経験は必ず将来の力になります。私はオリンピックの選手村で、他競技の監督と同室になった際、立教での寮生活が大いに役立ったと実感しました。今の経験は必ず皆さんの未来を支えてくれます。

## 立教英国学院レポート

### ～新男子寮完成!!～

皆様のご協力のもと、新男子寮「Sycamore House」が2026年4月に竣工し、生徒達は快適に過ごしています。建設費の一部にはブルーベル募金にお寄せいただいたご寄附を使わせていただいております。



### ～池上彰さん、立教英国学院名誉校長就任!～

2026年6月、元NHK記者でジャーナリスト、立教大学客員教授の池上彰さんが本学院の名誉校長に就任されました。7月には学校を訪問し、生徒と交流、終業礼拝でご講話をいただく予定です。



**ご報告** 昨年度スタートしたブルーベル募金は、2026年3月31日をもって、募金期間が終了しました。お陰様で目標額の5千万円を超え、約5,648万円の浄財が寄せられました。この場をお借りし、改めて深く感謝申し上げます。皆様からのご期待に添えられるよう、学院一体となって教育の質の向上、キリスト教に基づいた人材育成に更に邁進して参る所存です。

**ご支援のお願い** 2027年の創立55周年に向けて、「ブルーベル募金フェーズ2」を開始いたしました。本校の教育活動や環境整備は、多くの皆様のご支援によって支えられています。志ある方は「ブルーベル募金フェーズ2」へのご寄附をお願いいたします。皆様の温かいご支援が、未来を担う生徒たちの成長を支えます。

### OFFICIAL WEB SITE

学校情報やカリキュラム、  
入試情報、学校説明会情報はこちら



### 公式 SNS

日常生活と行事を通して、  
学校の魅力をお届けします



〔英国〕 RIKKYO SCHOOL IN ENGLAND  
Guildford Road, Rudgwick, West Sussex RH12 3BE U.K.  
Tel: +44-(0)1403-822107 E-mail: eikoku@rikkyo.co.uk

〔日本〕 立教英国学院東京事務所  
〒171-0021 東京都豊島区西池袋 3-34-1 立教学院内  
Tel / Fax: (03)3985-2785 E-mail: tokyo@rikkyo.co.uk